

早生の登熟は平年並！

籾の黄化具合を確認し適期収穫、適正な乾燥・調製を！

ここがポイント！！

- 1 出穂期と積算気温をもとに、早めに作業計画を立てる
- 2 黄化籾割合から収穫適期を判断し、刈り遅れに注意
- 3 1.85mmのふるい目の使用を基本に、適正な調製を行う

1 品種ごとの出穂期と収穫適期のめやす

| 品種名 | 移植期 | 出穂期 | 収穫適期の積算気温 (出穂期後の日平均気温 の積算値) | 収穫適期のめやす (積算気温到達日) ※ |
|-------|----------|------|-----------------------------------|-------------------------|
| つきあかり | 5月 上旬 | 7/23 | 1,000～1,100 °C | 9/1～9/4 |
| ゆきん子舞 | 5月 上旬 | 7/25 | 975～ 1,025 °C | 9/2～9/3 |
| あきだわら | 5月 中旬 | 8/17 | 1,050～1,100 °C | 10/3～10/5 |

※ 8月18日までは新津アメダスの日平均気温の本年値、それ以降は平年値を用いて計算

2 収穫・乾燥・調製について

(1) 収穫時期について

- ・ 早生品種は、平年並みの登熟期間となる見込み。今後の気温は高い予報となっており、収穫時期が早まる可能性がある。
- ・ 出穂期からの積算気温や、経営における品種構成・機械施設的能力・労働力・天候などを総合的に判断して、作業計画を立てる。
- ・ 実際の収穫適期は黄化籾割合が85～90%になった頃である。フェーンや高温下では登熟が早まり、胴割粒や基部未熟粒が発生しやすいため、刈遅れないようにする。

(2) 乾燥・調製について

- ・ 胴割粒発生防止に留意し、籾水分に合った適切な温度で乾燥する。
- ・ 選別はふるい目1.85mmの使用を基本とする。未熟粒や被害粒が多い場合は必要に応じて1.9mmのふるい目や色彩選別機を利用する。